

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

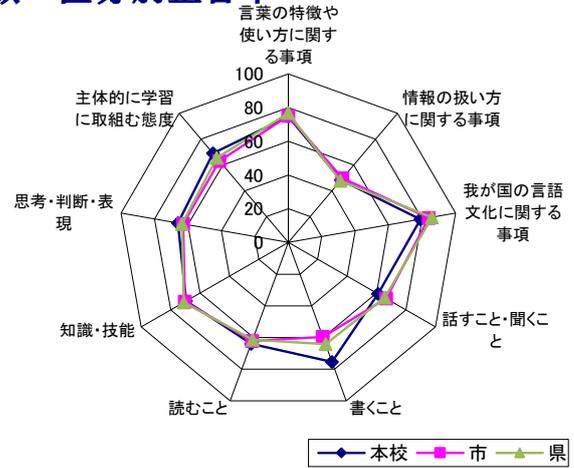
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	74.7	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	48.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	79.0	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	61.0	66.5	65.5
	書くこと	75.4	59.6	64.2
	読むこと	64.0	62.2	61.5
観点	知識・技能	69.4	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	69.0	63.0	65.5



## ★指導の工夫と改善

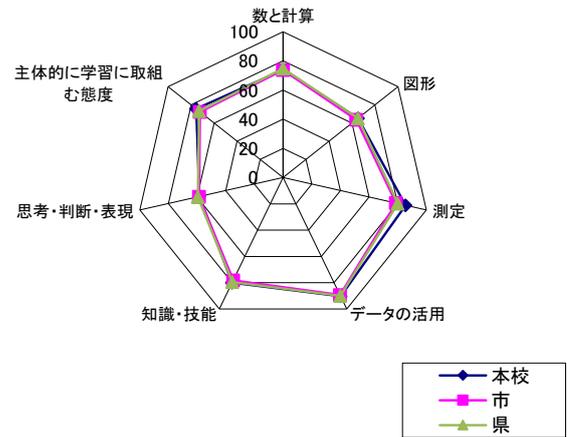
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●平均正答率は74.7%で、県の平均正答率より2ポイント下回っている。特に、3年の既習漢字の書き取りにおいては、県の平均正答率より低く、定着が不十分である。	・基礎基本の定着のため、確認テストなどの実施やAIドリルを有効活用し、繰り返し練習して習熟を図る。 ・漢字を活用する力を付けるために、国語の授業だけでなく、他教科や日常生活の中においても国語辞典を活用して漢字の意味を正しく覚えさせたり、国語ドリルの短文の中の漢字を読んだり書いたりする練習に取り組ませる。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は48.4%で、県の平均正答率より0.6ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの内容を捉えることが、県の平均正答率より3.4ポイント上回っている。	・情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけたり、要約したりすることを身に付けさせるために、図書資料やICT、また、子ども新聞等を活用し、多くの情報に触れさせるとともに、その中から必要な情報を選択する学習活動を意図的に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は79.0%で、県の平均正答率より6.9ポイント下回っている。 ●漢字が「へん」や「つくり」から構成されていることについての理解に、課題が見られる。	・漢字が、「へん」や「つくり」などから構成されていることについておさえ、様々な漢字の構成や漢字の字義や読み方について、辞書や辞典を活用して調べる活動を取り入れる。 ・多様な本や文章に触れることができるように、読書に親しむ機会を意図的に設定する。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は61.0%で、県の平均正答率より4.5ポイント下回っている。特に、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、10.5ポイント下回っている。自分の考えを理由を挙げながら話すことについても、5.4ポイント低く、課題が見られる。	・話を聞くときはメモを取るなど、話の中心を落とさずに聞き、自主的に話し合いに参加できるように支援する。 ・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動においても基本的な話の聞き方を身に付けさせる。 ・メモから必要な内容を整理し、相手に伝えたり確認したりする活動を取り入れる。
書くこと	○平均正答率は75.4%で、県の平均正答率より11.2ポイント上回っている。 ○自分の考えを明確にして文章を書く力は、県の平均正答率より13ポイント上回っている。また、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについても、県の平均正答率より11.5ポイント上回っている。	・文を視写させ、段落のまとまりを意識した文章を書くことができるように引き続き指導していく。 ・短文づくりや作文など、文を書く機会を意図的に取り入れ、基礎的な文章記述力を身に付けさせる。
読むこと	○平均正答率は64.0%で、県の平均正答率より2.5ポイント上回っている。 ○叙述をもとに段落の内容を捉えることは6.7ポイント上回っていて、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することに関しても7.6ポイント上回っている。 ●叙述を基に文章の内容を捉えることに関して2ポイント下回っている。	・説明文に多く触れさせ、文章の中心を捉えたり、段落の関係を考えながら話の中心や要点をまとめたりする指導を続ける。 ・物語教材では、学び合いの場を設け、登場人物の気持ちや場面の様子などについての読み取りを共有することで、多面的な読み方が深まるようにする。

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	73.8	74.8
	図形	65.2	63.7	65.3
	測定	85.5	78.9	80.1
	データの活用	90.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	80.0	78.3	79.5
	思考・判断・表現	58.5	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	75.6	72.3	73.1



## ★指導の工夫と改善

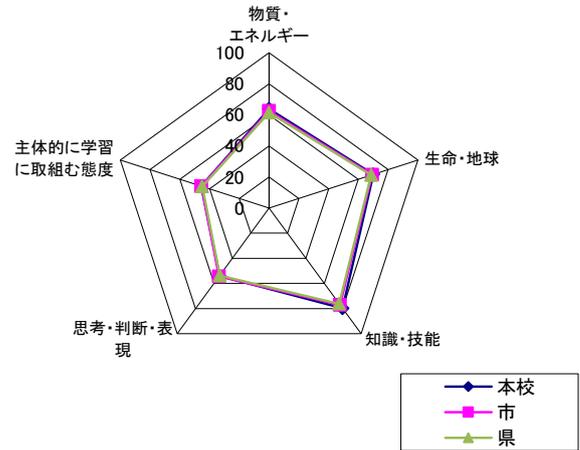
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○大きい数、小数、分数の数の相対的な大きさについて理解しているかの問題では、平均正答率が87.1%で、県の平均正答率より3.3ポイント上回っている。</p> <p>○同分母の真分数+真分数=真分数の計算問題では、平均正答率が100%で、県の平均正答率より3.9ポイント上回っている。</p> <p>●数直線上に示された分数を読み取る問題では、平均正答率が56.5%で、県の平均正答率より11.6ポイント下回っている。</p>	<p>・数直線上に分数を表す練習を通して、1と分数を相対的な大きさで見える感覚を身に付けられるようにし、分子が1である分数が何個で1になるかを理解できるようにする。</p> <p>・基本的な計算問題に取り組む際、かけ算九九の定着が不十分な様子が見られるため、かけ算九九に繰り返し取り組むことで計算力の習熟を図っていく。</p>
図形	<p>○二等辺三角形の作図の問題では、平均正答率が95.2%で、県の平均正答率より7.1ポイント上回っている。</p> <p>●円の直径について正しく理解しているかの問題では、平均正答率が80.6%で、県の平均正答率より5.1ポイント下回っている。</p> <p>●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明している問題では、平均正答率が8.1%で、県の平均正答率より4.9ポイント下回っている。</p>	<p>・円の中心、直径、半径の概念については、デジタル教科書やICT教材を活用して視覚的に捉えられるように工夫し、正しく理解できるようにする。</p> <p>・二等辺三角形の定義を押さえるとともに、同心円の半径がすべて等しいことと関連付けて考えられるようにし、「円の半径」や「二等辺三角形の辺の長さ」などの理由を記述する際に必要なキーワードを示すなどして、的確に表現する力を高める。</p>
測定	<p>○二つの時刻の間の時間を正しく求める問題では、平均正答率が83.9%で、県の平均正答率より6.8ポイント上回っている。</p> <p>○1分=60秒の関係を理解しているかの問題では、平均正答率が88.7%で、県の平均正答率より5.1ポイント上回っている。</p> <p>○重さに関する問題では、はかりの目盛りの読み方の問題の平均正答率が91.9%、身近にあるものの重さを視察して適切な単位で表す問題の平均正答率が74.2%と、ともに県の平均正答率を上回っている。</p>	<p>・日常生活の中で時間の長さや物の重さを意識させる場面を設定したり、具体的な体験を通したりすることで量の概念の理解を深めるようにする。</p> <p>・単位の関係を正しく理解できるように、繰り返し問題に取り組む、更なる定着を図る。</p>
データの活用	<p>○棒グラフの1目盛りを表す数を正しく理解しているかの問題では、平均正答率が90.3%で、県の平均正答率とほぼ同等であった。</p> <p>○棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘することができるかの問題では、平均正答率が90.3%で、県の平均正答率とほぼ同等であった。</p>	<p>・棒グラフの各項目の数量やその違いを読み取る経験を積ませることで、数量の大きさの違いを一目で比べることができるよさを実感しながら棒グラフを読んだり書いたりする力を高める。</p> <p>・棒グラフから読み取れる情報を的確に把握する力を身に付けるために、他教科においても意識して棒グラフに触れることができるようにする。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.8	62.5	61.5
	生命・地球	70.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	79.8	77.2	76.3
	思考・判断・表現	54.0	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.6	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は63.8%で、県の平均正答率より2.3ポイント上回っている。</p> <p>○「電気の通り道」の回路を理解しているかを問う問題では、平均正答率が90.3%で、県の平均正答率より21.7ポイント上回っている。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」の鉄くぎがどのような磁石になるのかを問う問題では、平均正答率が30.8%で、県の平均正答率より12.5ポイント下回っている。</p>	<p>・実験や観察を通して、結果を整理し文章にまとめていく活動を繰り返していくことで、学習内容を確実に定着させる。</p> <p>・実験や観察の予想や結果を児童間で交流させ、様々な視点で比較考察することで、まとめた内容のさらなる定着や、次の学習課題が児童から出てくるような場を設定していく。</p> <p>・教科書だけでなく、補充プリントやAIDリルを活用することで、理学的用語や知識を定着させ、自らの生活経験と結び付けて理解できるようにする。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は70%で、県の平均正答率より1.4ポイント上回っている。</p> <p>○「こん虫のからだのつくり」の設問では、2問ともに県の平均正答率を大きく上回っている。普段から昆虫に触れる機会が多い環境を生かし、児童の体験をもとに学習ができていると考えられる。</p> <p>●「太陽と地面のようす」の日なたと日かげの地面の温度のようすをもとに、日傘の下のほうが涼しく感じる理由を推測する問題では、平均正答率が25.8%で、県の平均正答率より8.4ポイント下回っている。</p>	<p>・自然豊富な学校の環境を生かし、児童が自然に触れる時間を多く取ることで、こん虫に対する関心を高め、理解を深める。</p> <p>・一人一台端末を効果的な補助ツールとして活用し、蓄積した観察記録を比較検討したり、考えを言語化して伝え合ったりする。</p> <p>・日常生活を想起し、課題解決に向けての予想を立てる活動を多く取り入れる。</p>

## 宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「宿題は自分のためになっている」に肯定的回答をした児童は98.0%と高く、県の平均を4.3ポイント、市の平均を3ポイント上回っている。また、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的回答をした児童も96.8%と高く、家庭学習の習慣が身に付いていて、必要性を理解している児童が多いことが分かる。

●一方で、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は59.6%で、県の平均より11.2ポイント、市の平均より8.4ポイント低くなっている。家庭学習の内容を見ても、「予習をしている」では7ポイント、「復習している」では13.3ポイント、「テストの間違い直しをしている」では20.3ポイントと、それぞれ県の平均と比べ低くなっている。同様に、市の平均と比べても低くなっている。宿題のように与えられた課題に取り組むだけでなく、いくつかの学習課題を提示したり、日々の授業の振り返りから、自主学習につながる指導をしたりするとともに、自主学習ノートに意欲付けのコメントを書くなどし、自分にとって必要な学習に意欲的に取り組めるように支援していきたい。また、学年だよりや学級懇談などでも話題にし、家庭と連携して取り組んでいけるようにしたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的回答をした児童の割合は82.2%で、県と市の平均を約8ポイント上回っている。また、「話し合うときに友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の児童の割合は100%である。話し合い活動に意欲的に取り組むことができている児童が多いことが分かる。

●一方で「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に肯定的回答をした児童の割合は71%で、県と市の平均と比べ約5ポイント、低くなっている。必要に応じてICT等を効果的に活用するなどして伝え合いや学び合いができる授業の展開を工夫し、自分の考えを広げたり、深めたりすることのよさを実感できるようにしていきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合は96.8%と高く、県の平均よりも6.7ポイント高くなっている。与えられた仕事を最後までやり遂げようと強い責任感をもって取り組んでいる児童が多いことが分かる。

○「人と話すことは楽しい」の肯定的回答をした児童の割合は100%であるとともに、「誰に対しても思いやりの心を持って接している」の肯定的回答をした児童の割合は91.9%、さらに「自分がもっている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答は90.3%であり、いずれも高い割合であるとともに県や市の平均よりも高くなっている。友達や家族と関わることに積極的な児童が多く、相手を肯定的に受け止めることができる良好な人間関係ができている。今後も自分を生かしたり、互いを認め合ったりできるような場を設定していきたい。

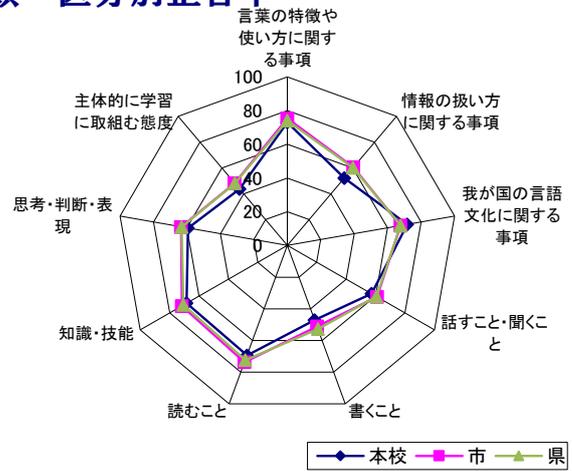
○「毎日朝食を食べている」の肯定的回答をした児童の割合は100%である。朝食をとる習慣はしっかりと身に付いている。

●「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答をした児童の割合は75.8%で、「失敗をおそれないで挑戦している」の肯定的回答をした児童の割合は69.4%、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答をした児童の割合は51.6%で、それぞれ県や市の平均を下回っている。協力して目標を達成し、成就感をもつことができるような意図的な場面を設定をし、自己存在感や自己有用感を高めていけるようにする。

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.0	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	52.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	71.7	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	57.3	61.0	60.7
	書くこと	47.1	51.2	52.8
	読むこと	69.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	68.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	59.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	43.7	48.2	48.1



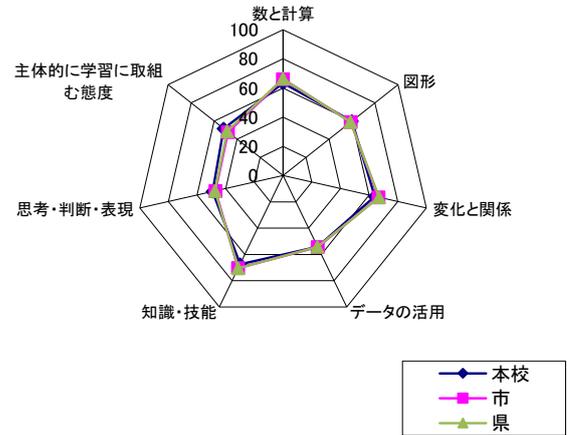
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は73.0%で、県の平均正答率より1.1ポイント下回っている。</li> <li>●漢字の読み書きでは、正しく読む問題の平均正答率は県の平均正答率とほぼ同等で、いずれも95.0%以上であった。しかし、正しく書く問題については、問題によって正答率にばらつきが見られ、書くことに課題がある。</li> </ul>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の確認テストなどを定期的実施したり、AIDリル等を有効活用して繰り返し練習をさせたりして習熟を図る。</li> <li>・既習漢字を使った短文づくりや辞書や辞典を活用して同音同訓異義語などを調べさせるなどし、漢字を活用する力や漢字への興味関心を深めるようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は52.2%で、県の平均正答率60.2%より8ポイント下回っている。</li> <li>●漢字辞典の使い方においては、県の平均正答率より10.3ポイント下回っており、理解が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報と情報の関係を整理して捉えるために、図書資料やICTなどを活用して、必要な情報を取り出ししたり、表現したりする機会を多く設ける。</li> <li>・辞書や辞典については、国語に限らず、他教科等の調べ学習や日常生活の中でも積極的に利用し、使い方を理解できるようにする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>○平均正答率は71.7%で、県の平均正答率より3.9ポイント上回っている。</p> <p>○ことわざの意味を知り、正しく使う力が身に付いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の授業だけでなく、生活経験と結び付けてことわざや慣用句、故事成語に触れる機会を設けたり、日常生活で使えるように短文づくりなどを行ったりして、理解を深める。</li> <li>・必要な知識や情報を得ることができるように、幅広く読書に親しむ機会を意図的に設定する。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は57.3%で、県の平均正答率より3.4ポイント下回っている。特に、話し合いの中で、意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの意見を比較し、それぞれの考えがどのようなことに基づいているのかに目を向け話し合い、一つの結論を出したり、自分の考えをまとめたりする活動を取り入れる。</li> <li>・国語に限らず、説明や報告などを聞き手に分かりやすく伝えたり、必要なことを記録したり質問したりしながら聞いたりする活動を充実させるようにする。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は47.1%で、県の平均正答率より5.7ポイント下回っている。特に、指定された条件に従って文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短文づくりや作文など、文を書く活動を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに、基礎的な文の記述を身に付ける指導をする。</li> <li>・内容の中心を明確にし、構成を工夫して文章を書かせたり、書いた文章を互いに読み合わせて推敲させたりして、読み手に伝わる文章を書けるようにする。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は69.4%で、県の平均正答率より3ポイント下回っている。</li> <li>○物語の中で、登場人物の叙述を基に気持ちを捉えることは、県の平均正答率を5.7ポイント上回っている。</li> <li>●物語を読んで、感じたことや考えたことを共有したり、説明文の内容や段落相互の関係を捉えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで、感じたことや考えたことを共有する活動を取り入れ、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付けるようにする。</li> <li>・段落相互の関係に着目し、考えと理由・事例との関係について叙述を基に捉えるように指導していく。</li> <li>・多くの文章に親しめるよう、読書活動を推進する。</li> </ul>

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.4	66.1	66.4
	図形	60.0	58.9	58.8
	変化と関係	64.0	66.6	67.0
	データの活用	54.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	67.5	70.4	70.6
	思考・判断・表現	49.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	51.7	47.8	48.8



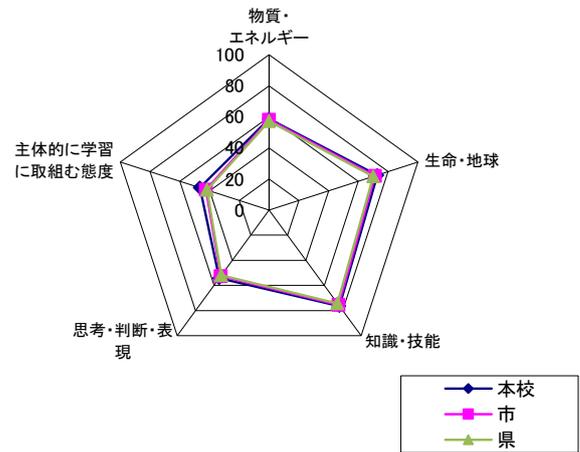
## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○概数に対応する数の範囲を理解しているかの問題では、平均正答率が63.3%で、県の平均正答率より5.9ポイント上回っている。</p> <p>○計算のきまりを使って小数のかけ算を整数のかけ算と見て計算するときの考え方を問う問題では、平均正答率が66.7%で、県の平均正答率より6.7ポイント上回っている。</p> <p>●千の位までの概数の表し方を理解しているかの問題では、平均正答率が63.3%で、県の平均正答率より14.6ポイント下回っている。</p> <p>●2けたで割るわり算では、平均正答率が55.0%と県の平均正答率より8.2ポイント、同分母分数の計算では、平均正答率が58.3%と県の平均正答率より21.8ポイントそれぞれ下回った。また、四則や( )のある計算では、正答率が58.3%と県の平均正答率より9.8ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>●四捨五入の意味や概数の表し方について確実に習得できるよう、繰り返し練習問題に取り組み、定着を図る。</p> <p>●割られる数の中に割る数がいくつ分あるか商の見当を立てて計算できるように、練習問題に取り組み、計算力の習熟を図る。</p> <p>●帯分数と仮分数の表し方について確実な習得ができるようにする。</p>
図形	<p>○教室のおよその面積を正しく選ぶ問題では、平均正答率が50.0%で、県の平均正答率より12.9ポイント上回っている。</p> <p>●直方体のある面に平行な辺を理解しているかの問題では、平均正答率が55.0%で、県の平均正答率より6.2ポイント下回っている。</p>	<p>●面積の単位の理解を図るために、単位の形式的な操作の指導だけでなく、一辺の長さを単位換算することが実感できるような具体的な操作の場を意図的に設けて指導していく。</p> <p>●図形の学習では、実際に描いたり組み立てたりする作業などの体験的な活動を取り入れたり、デジタル教材を用いて視覚的に捉えたりしながら理解が深まるようにする。</p>
変化と関係	<p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができるかの問題では、平均正答率が86.7%で、県の平均正答率より1.4ポイント上回っている。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかの問題では、平均正答率が48.3%で、県の平均正答率より3.4ポイント下回っている。</p> <p>●図を使って、基準量を求める除法の式を立てることができる問題では、平均正答率が60.7%で、県の平均正答率より7.1ポイント下回っている。</p>	<p>●絵や図で表すなどして、二つの数量の関係を正しく捉えられるようにし、伴って変わる数量の関係についての理解を深めるようにする。</p> <p>●伴って変わる二つの数量の関係について、○や□などの記号を用いて式に表すことよきに気付かせ、立式が正確にできるように丁寧な指導を心掛ける。</p>
データの活用	<p>○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、平均正答率が68.3%で、県の平均正答率より2.9ポイント上回っている。</p> <p>●問題を読み二次元表からこの欄を読み取る必要があるのか、またその求め方を説明しているかの問題では、平均正答率が18.3%で、県の平均正答率より2.3ポイント下回っている。</p>	<p>●数値の読み取りが的確にできるように指導する。</p> <p>●グラフの読み取り方について、社会など他教科と関連付け活用するようにし、表を読み取る力を高めていく。また、表から読み取ったことを表現する際には、言葉や文で適切に表現できるように対話的活動の充実を図る。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.7	58.1	57.2
	生命・地球	72.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	76.5	75.5	74.4
	思考・判断・表現	54.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	46.5	42.4	41.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は58.7%で、県の平均正答率より1.5ポイント上回っている。</p> <p>○「電気のはたらき」では、モーターを速く回すための回路の作り方を問う設問の平均正答率は45.0%で、県の平均正答率より11.7ポイント上回っている。</p> <p>●「物の体積と温度」では、温度によって体積が変化する性質を利用している道具を選ぶ設問の平均正答率は35.0%で、県の平均正答率より12.2ポイント下回っている。</p>	<p>・実験や観察などを通して学習内容をしっかり理解させるとともに、関連する理科用語についても、確実に押さえるようにする。</p> <p>・児童の生活経験から学習問題を設定することは行っているが、学習した物事の性質と身の回りの事象との結び付きが不十分なことから、まとめの場面でも、もう一度生活経験を振り返ることで、学んだことが身の回りのどんな場面で活用されているかを考えさせるようにする。</p> <p>・国語の学習と関連付けながら、問題の文章を理解する力や、事象や理由を説明する力を身に付けられるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は72.7%で、県の平均正答率より2.7ポイント上回っている。</p> <p>○「月と星」では、4つの設問全てにおいて県の平均正答率を上回っている。特に、満月の動きを時間や方位と合わせて考える設問では、平均正答率が86.7%と高く、県の平均正答率より10.4ポイント上回っている。</p> <p>●「1年間の植物の成長」では、サクラの1年間の変化を問う設問の平均正答率は56.7%と、県の平均正答率より12.9ポイント下回っている。</p>	<p>・月や星の動きについては、視聴覚教材を活用したり、家庭と連携して観察時間を確保したりするなど、具体的に理解できるように指導していく。</p> <p>・自然に触れる機会が十分に確保できる地域の特性を生かし、植物の成長や動物の様子などの季節毎の変化を、観察した記録と日常生活の体験を結び付けて比較することで、興味関心を高めながら、理解を深めるようにする。</p> <p>・日常生活を想起し、課題解決に向けての予想を立てる活動を多く取り入れる。</p>

# 宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は76.7%で、県の平均を4.4ポイント、市の平均を6.1ポイント上回っている。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は71.7%で、県の平均より9.9ポイント、市の平均より13.2ポイント上回っている。学習目標時間を決めて継続的に自主学習に取り組んだり、予定されたテストに備えてテスト勉強をしたりするなど、今必要な学習に家庭で取り組むことができる児童が多く見られる。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合は98.3%と高く、県の平均を4.7ポイント、市の平均を4.6ポイント上回っている。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」に肯定的回答をした児童の割合も95.0%と高く、県の平均を3.5ポイント、市の平均を2ポイント上回っている。責任感が強く、与えられた仕事に対して積極的に取り組んでいる児童が多いことが分かる。今後も、学校行事や係・委員会活動など機会を捉え、児童の活動の様子を取り上げ頑張りを称賛することで、活動の価値付けを行い、達成感や充実感をもてるようにし、自己有用感を高めることができるようにする。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」に肯定的回答をした児童は40.0%で、県の平均を15.5ポイント、市の平均を18.3ポイント下回っている。ドリルやプリント、AIDリルを活用するなどして、計算や漢字練習に繰り返し取り組むことで基礎学力を高めていきたい。また、できていることを積極的に称賛する機会を意図的に設定するなどし、学習に対する自己肯定感を高めるようにする。

●教科の理解度と好き、嫌いに関する質問では、90.0%の児童が社会がよく分かると答えているにもかかわらず、53.3%の児童が好きではないと答えている。都道府県名など覚えなくてはいけない知識が多く、知識を習得する過程で苦戦する児童が多いことや、教師主導型授業が多くなってしまっていることによることに関係しているのではないかと考えられる。一人一台端末を活用するなど多様な方法で調べるスキルを高めつつ、調べ学習を積極的に取り入れたり、グループや学級全体で意見交換をしたりするなど児童が主体的に学習する機会を取り入れていくように努める。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)。」で、4時間以上と回答した児童の割合は25.0%で、県の平均を6.7ポイント、市の平均を7ポイント上回っている。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」でも、4時間以上と回答した児童の割合は18.3%で、県の平均を3.7ポイント、市の平均を5ポイント上回っている。このことから、ゲームや様々なメディア機器に依存した生活を送っている傾向が見られる。学年だよりや学級懇談などで家庭への啓発をするとともに、学級活動等で生活習慣の見直しについて児童が考える機会を設け、改善への意識を高めていきたい。

## 宇都宮市立清原南小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を活用した学習活動の充実を図る。	一人一台パソコンなどのICT機器や図書資料を活用し、自らの課題を解決していけるよう学校全体として取り組んでいる。	4・5年生ともに、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」に肯定的回答した児童の割合は60%を上回っていて、興味関心に基づいた学びへの意欲の高さが分かる。一方で、「本やインターネットなどを利用」に関しては、4年生は48.4%、5年生は75.0%と、発達段階での差が見られた。今後も、児童の意欲を持続させ、図書資料も含めICT等を効果的に活用して、自分の課題を解決できる力を育てたい。
児童同士の協働的な学び合いを通じた思考力の向上と教師のコーディネート意識した授業の展開	課題を明確にした話し合いを通し、自分の考えを整理したり、深めたりできる「学び合う仲間づくり」を意識した授業の実践を行っている。	4・5年生ともに、「授業で話し合う活動をよく行っている」、「話し合いに自分から進んで参加している」に肯定的回答した児童の割合は80.0%を上回っているが、「話し合う活動を通し、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」は約70.0%で、県や市の割合より下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、主体的に学習に取り組む態度の割合が、他の観点と比べ低い傾向にあり、「授業の中で自分の考えを文章にまとめて書くこと」に苦手意識をもっている児童の割合も高かった。	各教科の見方・考え方を働かせた授業展開の工夫	教科の特質に応じて、言語活動を充実させるとともに、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を意図的に取り入れる等、授業改善に取り組む。
話し合い活動に意欲的に取り組んでいる児童は多いが、「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的な回答をした児童の割合は、県や市の割合より低くなっている。	児童同士の協働的な学び合いを通じた思考力の向上	学び合いの場を意図的に設定し、友達との伝え合いや聞き合いを通し、様々な情報や知識を共有するとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広めたりすることができるよう教師が促す「学習の個性化」を図り、発展的な学習にもつなげる取組を進める。